

巻 頭 言

学 長 小 林 雅 人

本年、横浜商科大学は、開学50周年を迎えた。この半世紀という節目の年に『紀要』第11巻を記念号として刊行できたことは、誠に嬉しい限りである。執筆者はもとより編集に携わって頂いた紀要委員会委員の教職員はじめ関係者各位に、この紙面を借りて深謝申し上げたい。

1966年に横浜商科短期大学として産声をあげた本学は、「安んじて事を託さるる人となれ」という建学の精神のもとに、商業教育の完成をめざして高等教育機関を創設した松本武雄初代学長の意思が脈々と受け継がれ、半世紀という歳月を経て今日を迎えることができた。これもひとえに、本学をご支援頂いた方々や教職員のお陰と感謝申し上げる。

本学は、短大開設から2年後の1968年に4年制大学に移行し、1974年には当時の文科系大学には珍しかった中型コンピュータを導入して他大学に先駆けて経営情報学科を、また国際観光都市・貿易都市横浜の地域性を活かした日本で唯一の名称の貿易・観光学科を開設した（2015年度から観光マネジメント学科に改組）。1994年には、それ以前から継続して行われてきた横浜駅周辺の商業集積地における消費者動向調査を本格的に実施するために、地域産業研究所を開設した。また、国内外の大学や企業と協定を結び、地元の鶴見区とも包括連携協定を結んで、2万人を超える実践力を備え国際感覚を持った有為な人材を社会に輩出して

きた。

このように、本学は開学以来、時代のニーズを先取りし、地域社会と密着し、地域からの要望や期待に応える形で、人材育成と各種の事業を展開し、国際都市横浜の発展に貢献してきた。また、一貫して少人数教育にこだわり、学生一人ひとりの個性を伸ばす教育を続け、半世紀を経ても変わらぬ評価を頂いている。さらに、研究機関としての役割も見失うことなく、この『紀要』の刊行もその一つであるが、本学の教員は多くの研究成果を世に送り出し、その真価を問うてきた。

今後もこれらの方針を貫き、時代のニーズである高齢化社会に起因する諸問題を解決するために新学部を設置し、研究活動を通して、グローバルな視点を持ち地域社会に貢献できる人材の育成を行っていく所存である。本巻を、50周年のマイルストーンに留めることなく、次の半世紀に向かって誓いを新たにしてスタートするための礎としたい。

2016年10月1日